

平成27年度第1回金沢市廃棄物総合対策審議会

会 議 録

日時：平成27年10月16日（金）
午後2時00分～4時15分

会場：金沢市西部環境エコビルセンター
環境学習室

所管：金沢市環境局

本件は、平成27年度第1回金沢市廃棄物総合対策審議会の会議録であることを
了解します。

平成28年1月7日

金沢市廃棄物総合対策審議会

会長 関 平和

平成 27 年度第 1 回金沢市廃棄物総合対策審議会 会議録

■日 時 平成 27 年 10 月 16 日（金） 14:00～16:15

■場 所 金沢市西部環境エネルギーセンター「環境学習室」

■出席者 別紙のとおり

■内 容 以下のとおり

環 境 局 長 本日はご多忙中のところ、ご出席を賜り感謝申し上げます。また、委員の皆様方には、日頃から本市の廃棄物行政に、格別なご理解とご協力を賜わり、重ねて御礼申し上げます。

北陸新幹線の開通以来、多くのお客様で金沢市が賑わっている。この 6 ヶ月間で、鉄道利用者が約 3 倍、兼六園が 47%、21 世紀美術館が 31% の入場者の増となり、シティホテルの稼働率も全国 1 位と聞いている。新幹線は経済を活性化する一方、ごみも増やすと言われているが、開通後のごみ量は、1%弱増えただけであり、現在のところ大きな変化はない。

しかしながら、持続可能な社会の実現に向け、ごみの減量は不可欠な課題である。10 年後には東部環境エネルギーセンターの更新を控え、本市としては、燃やすごみを急ぎ抑制し、建設経費の縮小を行うことが必要と考えている。

本日はごみ処理基本計画の重要施策に位置づけている、家庭ごみ有料化の素案作成に向け、内容等について協議いただきたいと思う。これまで実施してきた市民との意見交換会では、反対意見も賛成意見もあった。ただ、ごみの減量化・資源化が必要であるということについては、ほとんどの方にご理解をいただけたのではないかと思う。

限られた時間ではあるが、市民に理解を得られる、より良い制度となるよう、忌憚のないご意見を賜りたいと思うので、よろしくお願い申し上げます。

事 務 局

- ・委員の紹介
- ・欠席委員の報告
- ・出席委員数 11 名であり定足数を満たしていることを報告
- ・会長の推薦を求める
- ・委員より、関委員を推薦することについて提案（全員了承）

会 長 廃棄物対策は市民にとって非常に大事な課題である。委員の皆様が活発な議論を出来るようにしていきたいと思うので、よろしくお願い

申し上げる。

本日の議事は審議事項が1件。今回は素案の形で審議をいただくので、施策の意思形成過程であるという理由により、非公開で進めたいがよろしいか。

(異議なし)

事務局 今回の審議会は非公開のため、配布した素案の資料については持ち帰らず、机に置いておかれるようお願いする。なお、マスコミ等の対応については事務局で一括して行うこととしたい。

また本日、広田市議会議員より、「家庭ごみの有料化への反対を求める要請書」をおあずかりしている。この要請書は、市民本位の金沢市政をつくる会から委員各位あてに出されたもので、これまでのフォーラムなどで反対意見があるということ踏まえ、最終的には拙速な有料化を行わず、いろいろな施策を市民と行政の共同によって、ごみの減量と資源化を推進していくことを、審議会ですべての委員から求めていただきたいという内容である。ご希望があればお渡ししたい。

会長 それでは、審議事項1「家庭ごみの有料化（素案）について」の事務局から説明をお願いします。

事務局 資料について説明

会長 ただ今の説明を受け、ご意見、ご質問はないか。

委員 有料化には基本的には賛成。1リットル1円という金額について、水分の多いごみは袋を二重にしたりすることもあり、例えばまとめ買いをすると割安となるようなサービスなどを、特に婦人会などに打ち出す必要があるのではないか。9ヶ月間の周知期間では、確実に燃やすごみと燃やさないごみを色分けするということを示すべきである。今、使っているごみ袋で出した場合、収集の際にはどうなるのか。管理会社のいるマンションや町会ではいいが、そうでない若者の住むような場所については、どのように周知徹底するかを具体的に出したほうが、多くの方に理解していただき、モラルが高まり、地域の美化に繋がるのではないかと思うがどうか。

リサイクル推進課長 まとめ買いの特典については、減量・資源化を目的としているため考えていない。先進都市の事例で、運動会等の景品にしてよいかということによってトラブルがあり、結局使わないでほしいということになっ

た。減量のため、お金を出して袋を買うのが第一義だが、法律で制限はできない。

違反ごみ対応について、施行日の前後にそういうものが想定される。今も違反ごみにはシールを貼り、回収せず出した方に認識をしてもらって、次の収集日に回収をしている。施行日の前後では、ステーションの巡回など職員総出で強化して、周知していきたい。

若者は、特に単身者のアパートなどに住んでいる方が多いと思うが、そこは町会とも接点がなく、不動産屋などを通じて、入居者向けの説明会も行っていきたい。

環 境 局 長 買い置きしてあるごみ袋については資源ごみの排出に使用してもらいたい。市販の袋は破れやすいものもあるが、有料ごみ袋については、簡単に破れないよう、強度も考えていきたい。

委 員 有料化により、年間の収支はどのようになるのか。

リサイクル推進課長 有料化でごみが平均14%減るとなると、固定費もあり経費が14%減るわけではないが、1割弱の経費が減る。ごみが減ると、ステーションの回収で、収集車が一杯になって戻る回数が減るので、効率化となり経費削減が図れる。ごみが減ればという前提だが、1億から2億の削減になる。

環 境 局 長 有料化で見込まれる収入については、標準世帯の負担が年間4千円を基本とすると、4億程度の収入で、諸経費を除くと、概ね2億5千万円ほどが純利益として見込める。実際やってみなくてはわからないが、有料化はごみの減量が目的で、収入を目的としてはいない。

委 員 人口50万都市ということで、もっと効果があるのではないかと。

リサイクル推進課長 燃やすごみ・燃やさないごみだけでなく、資源化にも経費がかかっており、その総額が40億。燃やすごみ・燃やさないごみの量が減り、そこに係る経費が落ちるだけなので、一気に40億が20億ということにはならない。

委 員 何十億という効果が出てくると思っていた。説明するにあたり、収支の状況を示したほうが説得力があるのでは。

環 境 局 長 これまでの意見交換会でも、収支についての質問もあり、今のような説明を行ってきた。傾向としては、自分たちがどのくらい支払うことになるのかということに、主に興味があったように思う。

委員 有料化に反対ではないが、金銭でごみを減量するという考え方には、町会連合会でも問題になっている。これまで町会ではステーションの当番を決めて、ごみの分別や出し方に努力をしてきた。有料になれば不届き者が色々な物を置いて行くし、指定でない袋も出されるが、そうなったらどうするのか。これまでボランティアでやっていた方々が、お金を出しているのになぜこんなことをしなくてはならないのかという、嫌な思いが出てくるのではないかということが一番心配している。特に、学生のいるところのごみ当番は苦勞している。巡回指導するというが、四六時中出来るわけではない。違反ごみを回収せずにおくと、ステーションが汚くなり、管理しづらくなる。有料化以前に考えなくてはならないことがあるのでは。また、有料化しても思うような減量にならない場合、袋代を値上げして、もっと抑制しようという動きになるのではないか心配だ。根本的にごみを減量する意識が市民に行き渡るようにしなければならない。

リサイクル推進課長 ここ数年、ごみ量は横ばいの状況で、減量・資源化の施策は増えてきている。例えば金沢市の資源ごみは6分別だが、全国の平均より多い。これに足すとすれば、古紙を資源化できないかということで、新たに分別を増やすことも有料化と同時に考えている。これまでそういうことをやってきたが、全国平均からみてごみ量は多い部類に入っているのが現状。当然これからも、色々な減量化策、資源化策を行っていくが、現状目標を達成できていない。東部環境エネルギーセンターが10年後に建替の時期がくるが、そのままの規模だと130～140億くらいの費用がかかる。それは借金でやるので、その支払は次世代が負担する。ごみを減らせば、同規模ではなくコンパクト化したものを30億、40億減らして建てることができ、次世代の負担を抑えられる。したがって、やはりごみの減量を行わなくてはならないというのが我々の事情である。将来の袋代の値上げについては、平成17年に環境省が有料化を奨励し始めたが、それ以前から有料化しているところもある。調べたところ、途中で値段が上がったという事例は聞いていない。北海道や関東で1リットル2円という、この素案の倍の金額を導入しているところもあるが、その水準に向かう流れにも全国的にはなっていない。50年後などは分からないが、現時点では、袋の値上げについては考えていない。ごみを減らす一つの手段として、1円という金額を設定したい。それでだめなら、新たな減量化、資源化策の手を打っていくということになる。

委員 そういう策があるなら、事前に行ってから有料にしてはどうか。有料化については、先日、全国自治会中部大会に行った際に、「金沢はまだごみの有料化をしていないのか」と言われ、残念な気持ちがあった。

金沢市民には、全国的に有料化に移行している都市が増えつつあることを知っている人と知らない人がいる。水分の多いごみについて、一時我々も、水分は切って出すとか、プラスチックは極力洗って資源にしようという時期があったが、平成 24 年から何でもいいということになった。一番懸念しているのは、お金で解決出来ればどれだけ出してもいいということにならないか。また袋を買いたくない人が不法投棄や、他のステーションに置いていくというのが、町内会の話が多い。有料化しかないというのであれば、年間 4～5 千円の負担が本当に重いのかというと、そんなに問題ではないと思われる。現在無料であることから、お金を取るということについて、もっと考えなくてはならないのではないか。

環 境 局 長

おっしゃるとおりである。いろいろな物が高騰し、年金も削られている中で、これ一つが増えることにより、全体が増えるという意識があるかと思う。お金を頂くということは非常に難しいことだとは思いますが、不法投棄が増えることや、不適正なものが出されるということについて、先行都市ではそのような状況はない。

市はこれまで、紙ごみについては集団回収を奨励してきた。生ごみについては、他都市にない生ごみリサイクル循環システムを構築し、校下婦人会の協力を得て、ダンボールコンポストや電気式生ごみ処理機の普及にも努めてきた。ただ、なかなか思うように普及せず、一方で集団回収は減少している。そういった中で、ごみを削減し資源化率を上げるため、今まで行ってきた施策との相乗効果のある有料化に着手している。

リサイクル推進課で、収集担当から優秀な職員を選び、各ごみステーションを回って分別指導を行っており、非常に評判がいいと聞いている。彼らは A～E の 5 段階でごみステーションを評価していて、初めていったときは分別が悪く、ほとんど D、E であった。彼らが行って分別の協力を願う中で、これまで住民同士で言えなかったことについても、市が直接指導することが出来るので、立ち番の方からも評判が良い。こういうところを今後強化していきたいと思っているし、有料化の導入が、これまでの施策やこれから行う施策の後押しにならないかと考えている。

委 員

校下婦人会の意見交換会では、いろいろな意見があった。我々はこれまでも分別に一生懸命取り組んで、生ごみの減量も、今はダンボールコンポストの普及に努めている。これまでプラごみやペットボトルの分別を徹底してきたが、西部環境エネルギーセンターの稼働から、規制が緩くなり、これまでの取り組みは何だったのかと不満が出た。今また、分別のマナーについて、指導に取り組むという話が出たが、

リサイクル推進課から来られる方の説明も人によって違って、緩い方とそうでない方と、校下により様々あったと聞いている。これまでステーションで立ち番をして目を光らせていたのに何でもよくなり、これまでのことが何だったのかという意見も聞く。集団回収の古紙についても、学校関係は回数が減っていて、私の地元も年3回が2回になった。その合間に婦人会で古紙回収も始め、定例会の折に持ってきてもらって、業者に翌日取りに来てもらっている。市内全体では大変な量がステーションに出ていると思う。それをなんとかしようと、地域ごとに回収拠点をたくさん作っていただきたいと強く要望していた。有料化になる目的をはっきりとして欲しいという思いがあり、説明にあったような公平化も大切だが、ごみの袋は買わなくても、スーパーの袋で十分という、お年寄りや2人だけの世帯も多く、有料化に抵抗がある状況である。

リサイクル推進課長

資源回収の拠点づくりについては、現在、公共の拠点が3箇所と、ストアークるステーションが9店舗ある。これを増やしていきたい。古紙の集団回収が減っていることについては、学校や幼稚園のPTAなどの活動が先細りになっている。集団回収は団体登録してもらっているが、たとえばそれを町会単位で登録していただき、回収するシステムや、ご意見にあったように、各校下にボックスを置き、資源回収に出してもらおうようなことも、施策として検討していく。ごみ袋の収入をそういった3R活動に充てていくことで、良い循環が出来るよう考えていく。

環境局長

ごみ出しの指導員の説明にばらつきがあるということを知っていて、反省している。今後は統一した説明に努めたい。拠点回収については、ごみを一時置かせていただくことは迷惑な部分もあり、なかなか民間では了承を得られない。公共のところで、どこかないか現在探している。また、西部・東部の管理センターに土日だけ集める資源搬入コーナーがあり、東部は2人、西部は4人の管理人をシルバー人材にお願いしている。そうやってマナーの遵守や清潔性を確保してきたが、4月から開設した西部環境エネルギーセンターの資源搬入ステーションは無人でやっている。開設の際は、管理人無しで大丈夫かという心配もあったが、市民の方を信用して行ったところ、マナーの良い状態で続いている。このことを説明すれば、民間でも協力してくれるところが現れるのではないかと思う。回収拠点は出来るだけ多く確保したいが、現状は交渉にいくと非常に厳しいことを言われる。今後も粘り強く交渉していきたいので、後押しをお願いしたい。

委

員

ここは清掃工場や管理棟などがあるからきちんとしている。街中の

ステーションはある程度ルールが守られているが、町外れのステーションは、残念ながらマナーが良くないステーションが多いと聞いている。ごみは出したいが、近づけたくないということで、ステーションを決めるときはいつも喧嘩になる。金沢は簡易包装でなければならないなど、ごみを出さないような取り組みをしてはどうか。

環 境 局 長 過剰な包装が多くみられる。製造の側にも声をかけて見直していただくなど、努力していきたい。

環 境 政 策 課 長 レジ袋は数年前から有料で、現在マイバッグの持参率は、90%近い高い水準にあり、定着している。そういう買い物の際の意識も大事であり、生産者や販売者の意識を変えることにもつながると考えている。

委 員 食べ物でも他のものでも、消費者はきちんと包装してないと、安全性や衛生性が疑われ、二律背反となることはずっと言われている。ごみを出さないとすると、計り売りとなるが、この時代には合わないため、安全性など、消費者が求めるものを、いかにコストをかけず提供するかということである。確かにごみの減量化は重要な話で、日本は資源国ではないので、エネルギーなど、いろんな意味で限られた環境の中で、どのように経済活動をしていくのかが課題である。この20年で医療費は膨れ上がり、40兆8千億円くらいになっていて、所得に対しては5%から10%に上がっていて、その分使えるお金が減っている。ごみの話も、このまま何もしないでいくと、自己責任でなく、税金さえ払えば何でも行政にやってもらえばいいとなると、これも違うのではないか。企業は環境について、省エネなど、経済的なインセンティブもあり、かなり神経を尖らせている。環境に配慮しない企業に対しては消費者もソップを向く。空気も吸えない、水も飲めない、食べ物も食べられない、どこかの国のことを考えると、日本は極端な言い方だが、天国に一番近い国といってもいい。外国人は日本にきて、ごみがないことに感心する。ある地域の方に聞くと、ある国の方が毎日ごみを出して、町会から注意しても、「自分の国は毎日出してもいい。分別しなくてもいい。」と言う。グローバル化でいろんな国の方がこちらに住み、そういう話が出てくるとすると、「ごみは有料で、毎日出すとあなたの負担になる。不法投棄すれば罪に問われる。」という説明をしっかりとしないといけないのではないか。また将来的なことを考えると、経済産業省の試算では、30年後には買い物をするために、歩いて往復1時間かかると言われている。生産者年齢人口が減り、作り手も、ごみ収集の人員もいない。そうすると、お金を出してでも来て欲しいという時代になると予測している。この問題は教育

の問題でもあり、小学校からいろいろな教育がある中で、ごみに特化はしないかもしれないが、環境という面も親が伝えてくということもある。高齢化が進み、資源ごみの分別の当番も高齢の方が行って、冬や夏に倒れるという危険性も出てくる。そうすると、限られた財源で、なるべく近いところをステーション化して、分別できる環境を構築しないと、経済活動すら難しくなってくる。そういう意味から、将来の布石として有料化を行うべきだと考える。

委員 私は30年間、生ごみは庭で肥料化し、畑で使っている。また、ボランティアなどで機会があり、全国の都市に勉強に行った。横浜では、金沢の7倍ほどの人口で、外国人も多いが、ごみを30%減らす「G30」という目標を立て、わずか3年で実現した。京都では、官民合わせてごみを50%減らす取り組みをしている。やればいろんなことが出来るので、市も自信を持って指導していただきたい。違反ごみについては開封して中身を調べ、指導している。警察のOBも雇って、問題のないようにしている。自分の町内でも問題のある人はいるが、徹底的に指導している。

私は20年来、禁煙のボランティアをしていて、おかげさまであちこちの地域が禁煙化していて、吸殻のぼい捨てもない。そういうことをやることで、マナーを守り、くわえタバコの人もぐっと減る。やれば出来るし、いろんな国を見てきたが、日本人はマナーがいい。市の方でも上手に指導していけば、有料化によって減量化や資源化が出来ると思う。自分も事業所で減量化・資源化に取り組み、やれば出来ると思った。婦人会や町会連合会もご苦労されていると思うが、自信をもってやれば出来ると思う。有料化には賛成するので、強力なご指導をお願いしたい。

委員 自分は有料化の地域に住んでいたことがあるので違和感はない。一番心配なのは、お金を出すのだから何でも捨てればいいという感覚が出てくるのが怖いのだろうと思う。マナーの問題と並行してやらなくては難しいのでは。燃やすごみの中の紙ごみを減らすのも有料化の効果ではないかと思うので、その紙をどこに持って行ってもらうか。また、ステーションの評価ランクで、マナーの悪いところで指導を進めていただくということと、紙の回収ステーションとして小学校や公民館に理解をいただければ、行くついでに紙ごみを持っていくという方法も良いのでは。管理の問題で難しいところもあるが、子どもと一緒に親が持って行って、教育にもなるのでは。マナーについては文化の違う留学生や外国の方は認識が違うことが心配なので、そのあたりをどう理解してもらうかが重要だと思う。

環 境 局 長

燃やすごみに何でも入れるという懸念がある一方で、資源ごみに汚いものを入れてしまうという懸念もある。有料化を導入するならば、分別指導も一層強化しなくてはならないと考えている。紙ごみの資源化については、拠点回収にせよ、ステーションで分別したものを集めるにせよ、それぞれに問題がある。金沢の場合、紙を資源化できる業者が少ない。今お願いしている事業者は、ある程度紙の質を限定している。富山県では、いろいろな種類の紙を処理する体制が整っている。紙を持ち込めるいろいろなルート確保も必要だと思う。外国人のごみ出しについてはこれまでもずっと問題だった。社会人も留学生もいるが、とくにアジア系の方のマナーが悪いと聞く。ごみの分別のパンフレットには、4ヶ国語の外国版がある。それだけで全ては網羅できないが、そういったものも作成し、大学にも協力をお願いして説明会を開催したいと思う。有料化になると、我々の考えていない問題が新たに出てくる可能性もあり、いろんな対応をしていかななくてはならないと考えている。収集には車も人も必要で、分別をするほど車の台数が必要となる。市だけで収集体制を考えるのは難しい。民間の協力が得られればありがたいと思うし、そういう声かけもしているが、難しい状況にある。有料化が定着し、ごみの量が減れば、少し分別を増やしても、現在の収集体制でも集められることも考えられる。

委 員

婦人会や町会の方はごみに対する意識が高いが、学生はあまり意識が浸透していない。学生は紙ごみが沢山出るが、それも全部燃やすごみに入れたりしているので、大学に講師の方に来ていただき、ごみに関して興味を持ってもらえる講座を開いていただけるとありがたい。

環 境 局 長

実際に行っている大学もある。これまで新入生だけを対象にしてきたが、今年から卒業シーズン前に、引越しごみの処分について、出前講座も行いたいと思っている。卒業時期にごみステーションが山のようにになると困っている町会がある。昨年、市の職員が夜間も通して立ち番をしたが、時期が遅かったようだ。今年は早めに実施しようと思っている。その町会の方が言うには、卒業の時期に、不用品を後輩に譲るリユース市を金沢大学がやっているのだから、他にも広めて欲しいという声があった。良いことなので、これまでも行ってきたが、引き続き各大学に要請したい。大学生の意識を高めるため、大学教授に協力をいただき、学生に色々なごみのイベントや3R活動のお手伝いしてもらっている。その中で少しでも、学生のごみに対する意識が広まっていけばと思っている。こういう活動も広げていきたい。

委 員

内灘なのか、かほく市なのか分からないが、通勤途中にごみを置いていく人がいるが、有料のごみ袋は市町をまたいで購入できるのか。

また購入の際に住所などは確認しないのか。

リサイクル推進課長 購入できる。金沢市内でもかほく市のごみ袋が販売されており、住所の確認はしていないが、価格はどこの店舗でも同じである。

委員 今出ているごみを100とすると、それを25%減らそうという話なら、75%は無料で、それを超える分を有料にしてはどうかという話を家族としていた。事務的に大変だと思うが、一つの方法として、例えば1世帯が年間100枚ごみ袋を使うとして、75枚を無料であげる。それを超えた分については、少し高くても、2円/枚でもいいと思う。1軒の家が年間どの程度ごみを出しているか、誰も知らないと思うが、その指標にもなるのではないか。あくまで減量化、資源化が目的で有料化が目的ではないということで、そういう方法もあるのではないか。

環境局長 先行して導入した都市でも同様のことを検討したが、人件費や事務量が膨大になるということで諦めたとのことだった。他都市からの持込について、現実的には可能だが、内灘の方が金沢の袋を買って捨てるということはなかなか無いと思う。現在、金沢は半透明の袋であれば出せるので、自分のところでは袋を買わず、金沢の職場に通勤で来る際に捨てていく事例がある。周辺自治体より高い料金を設定すれば、流入の防止はできるがそれも難しい。同じような料金の設定で、持ち込まれるごみに対しては自衛するしかない。

委員 町会の役員をしていたとき、ごみステーションの数が減り、1箇所につき集める範囲が広域になるほど、持ち込まれるごみが多い。小さいコミュニティなら、見る人もいるし、誰が持ってきたものか分かる。収集も大変になると思うが、ごみを出す場所を増やすことで自衛になると思う。

環境局長 収集の問題もあるが、ステーションを増やすこと自体難しい。自分の家の前にステーションが出来てほしくないという人が多い。道路にステーションがあるところも結構あり、ごみの量が多いところは交通の妨げにもなっている。それを解消したいと思い、ある業界に店の敷地に置かせてもらえないかと協力を求めたが、ほとんどだめだった。店が良くても、本部の方でだめだと言われる。本部が、実験的にやってみなさいという話になった事例もあるが、地権者から反対があっただめになった。その理由は、店はいつ無くなるか分からず、ごみの場所だけ残っては困るということだった。ステーションの設置については、金沢市では町会にお願いしているので、こちらの勝手を言うわけ

にもいかない。

委員 全国的に、ごみの減量はどこの自治体でもやらなくてはならない。そのツールとして、有料化がある程度効果があることがデータから読み取れる。金沢市では燃やすごみをターゲットとしているとのことで、東部環境エネルギーセンターの改築にあたり、息の長いごみ処理施設に手を加えるということで、周辺の方の理解が必要となってくる。今から準備しておかないと、10年先、20年先のことがスムーズに進まない。そのための大切な議論である。素案の中に3Rの推進があるが、国全体としても推進していかなくてはならない。特にリデュース、リユースを優先的にやっていくということ。先ほどの話で、各企業のいろいろな分野で、環境に配慮した製品の開発や使用をしている。環境のマネジメントシステムを取得している企業も増えていて、配慮された製品が出てきている。その上で、自治体では市民の協力をいただいた減量化をしていくことにより、浮いたお金は別の施策に活かしていける。県とすると、金沢のごみの統計値が、県の中で重みを持っているので、金沢市の減量化の目標を達成していただけると、県全体として下がるので、努力をしていただきたい。そのためにいろいろなツールがある。市民フォーラムや出前講座で、環境教育に対する協力をしている色々な方の議論を踏まえ、有料化について、市民の意見、各界の意見を踏まえ前に進んでいくのではないかな。漠然とではなく、ここを何とかしたいので、こういう方法があるという、お互いの議論がなされることを望む。

環境局長 年度初めに国から説明があったが、これまでごみ処理施設の建設に対し、循環型交付金で費用の1/3を補助していただいていた。最近になってこれが不透明になり、需要どおりの予算がつかないことが、ここ1、2年続いていて、10年後どうなるか想像がつかない。そんなこともあるので、少しでも建設経費が少なくなるよう、努力していきたい。

委員 ごみ焼却場について、横浜市では焼却場の増設が難しいという中で30%の減量を実現し、新設の焼却場を中止し、既存の焼却場を停止したという実例がある。そういうケースを参考にして、金沢市でも自信を持って進めて欲しい。

会長 ここで、あらかじめ本日欠席の委員の意見を伺っているので、事務局より報告願います。

事務局

- ・有料化を導入する目的が減量化、資源化であるならば、市の財政のためではないということを強調すべきである。
- ・京都などでは有料化の効果が現れている。導入当初は混乱があるが、丁寧に説明すれば定着するのではないか。
- ・導入効果を検証し、定期的な見直しを行ってほしい。
- ・紙ごみ資源化など、他の施策についてもフォローアップが必要である。
- ・市民の抵抗の大きいところでも丁寧に説明してほしい。
- ・手数料収入は、リバウンド対策、不法投棄対策、環境教育、地域還元などに使用するのがいいのではないか。
- ・中核市でいうと松山市や奈良市など、減量が進んでいる例も参考にしてほしい。
- ・リバウンドが生じないような対策を講じてほしい。
- ・時代の流れでやむをえないのではないか。
- ・1ヶ月350円の負担はコーヒー1杯程度で、決して高くはない。
- ・ごみ袋はこれまでも有料で販売されており、市民にはそれほど混乱は無いのでは。
- ・説明にあたっては、周知期間を長く設けてほしい。

その他、これまでの色々な場で、ごみ全体の4割を占める事業系ごみの減量も必要だという意見も頂いている。今後この審議会において、平成17年度以降、11年間据え置かれているごみ処理手数料など、事業系ごみの施策も、委員の皆様の意見を伺いながら進めていきたいと考えている。

会長

皆さんの意見は出そろったと思われる。私の意見だが、5年先、10年先の金沢の将来を見通して、将来の世代の負担を軽減するという大きな課題がある。そのための一つの提案として、ごみを減量し資源化率を向上させるということは理念として正しいので、大きな意味では賛成である。どういう点を改善するかということで、皆さんの意見を集約すると、概ね皆さん賛成と言うことだが、中には完全に賛成ではなく、部所によっては反対もあるということで、一つにまとめるのは難しい。施策としてこれを実行することはいいが、それを納得していただくため、回収拠点の増設やマナーの徹底など、他の政策との連動や、周知期間を設けて、分かりやすく説明することをしていかななくてはならないと、皆さんの意見を聞いて感じた。

委員

条件付で市民も賛成ではないか。

環境局長

これまでのフォーラムや意見交換会のアンケートで、条件付を含め

れば半数以上は賛成であった。この素案において、その条件は満たしているのではないかと思う。

会 長 将来をはっきり見通すことは出来ないが、何らかの方向性を決めていかななくてはならない。皆さんの大勢としては賛成だと感じた。

環 境 局 長 修正すべき点があれば、この後でも応じる。素案が完成次第、パブリックコメントを実施し、広く市民の意見を聞きたいと思う。それまでに審議会の開催は予定していないので、本日の案で示したいと思うが、ご意見があれば今月中にお願いしたい。

委 員 指定袋でないごみは最終的には市が回収するということだが、地元はどう対処すればよいのか。違反者を探してくれるのか。

環 境 局 長 市へご連絡をいただければ対処する。そういう体制をとりたい。

委 員 ごみ袋の収入の使途について、観光客が非常に増えて、外国人がごみを持ち歩いていることが多い。聞いてみると、外国人はごみを捨てる場所が分からないという。少なくとも有名観光地にごみの捨て場所を作ってもらい、その経費に充てるということは考えられるか。

環 境 局 長 ごみ箱の設置については、いろんな分野の意見を聞く必要がある。他都市では、観光地にごみ箱は置いていない。あるのは北海道の知床だけだと思う。知床では自然を守るためにあえてやっていると聞いた。ごみ箱を置くことは環境局だけの話ではないので、研究課題のひとつとさせて頂きたい。

委 員 そういう施策を考えているということも入れたほうが、有料化が分かりやすいのではないか。社会福祉に使うのであれば税金を上げればいいのに、なぜごみに持ってくるという極論を言う人もいる。話が広がると、金沢方式のことにまで及び、まとまるものもまとまらない。あくまでごみの減量と言うことで話をしていかななくてはならない。

委 員 白山には何度も登っているが、始めは休憩所や宿泊所にごみ箱があった。今は一切無く、自分で持ち帰る。不特定多数の人が行く山がきれいで、生活をしている街が汚いということを考えると、マナーに重点を置いていかななくてはならない。

会 長 本日の素案についてご意見があれば、今月中に連絡をいただき、基本的には了承するというところでよろしいか。

(異議なし)

事務局 本日のご意見をまとめると、素案の8ページまでは、特に大きな話はなかったかと思う。9ページ以降、特に12ページのその他の施策について、事務局で意見を整理し、今後いただく意見も踏まえ、最終案としてお送りするというところでよろしいか。

(異議なし)

会長 それではよろしく願います。
本日の議事は以上であるが、議事に関する事またはそれ以外のことでご意見ご質問等ないか。

委員 東部環境エネルギーセンターの改修について、できるだけコンパクトな施設という話があったが、西部の施設を見せていただき、ごみを燃やすのに重油や灯油を使っているのかと思っていましたが、そうではなくごみ自体を燃やしているということだった。また発電した電力は施設で全部使っているということで、そうケチらず、世の中変わっていくので、外部に電気や給湯を売るということも出てくると思う。インシヤルだけでなくランニングコストも含めて、ただ小さくというだけでなくトータルで考えればいいと思う。

会長 質問がないようであれば、本日の議事を以上とする。議事を事務局にお返しする。

事務局 本日は長時間にわたるご審議に感謝申し上げます。本日の配布資料は回収させていただくので、席上において帰られるようお願いする。また素案が正式に公表されるまで、情報の取扱いにはご注意されるようお願いしたい。次回の審議会パブリックコメントを行った後に開催する予定であり、改めて日程調整させていただく。

これで、平成27年度第1回廃棄物総合対策審議会を終了する。

(別 紙)

平成27年度第1回廃棄物総合対策審議会出席者（順不同、敬称略）

会長 関 平和 (金沢大学理工研究域教授)
河内 久美子 (金沢学院短期大学副学長教授)
林 健治 (金沢商工会議所常務理事)
山本 建夫 (金沢市町会連合会副会長)
能木場 由紀子 (金沢市校下婦人会連絡協議会会長)
忠村 涼 (「金沢のごみを考える」学生連絡会)
福島 幸子 (金沢市一般廃棄物事業協同組合理事長)
元林 秀夫 (金沢農業振興協議会会長)
蔵本 和夫 (石川県環境部次長兼廃棄物対策課長・
石川県環境部長 宮崎良則委員の代理出席)
江口 満 (公募委員)
福田 太睦 (公募委員)

※欠席者

出村 昌史 (金沢大学医薬保健研究域医学系助教)
三国 千秋 (北陸大学孔子学院学院長)
松川 治彦 (石川県スーパーマーケット連絡協議会代表幹事)

(事務局出席者)

蚊戸 進 (金沢市環境局長)
佐久間 悟 (金沢市環境局担当部長兼環境政策課長)
野田 昌弘 (金沢市環境局担当部長兼リサイクル推進課長)
坂井 恒 (金沢市環境局施設管理課長)
松岡 茂 (金沢市環境局環境指導課長)
宮川 みどり (金沢市環境局リサイクル推進課ごみ減量化推進室長)
蚊戸 博樹 (金沢市環境局環境政策課長補佐)
宮田 久美子 (金沢市環境局環境政策課企画庶務係長)
加藤 祐介 (金沢市環境局環境政策課主査)
宮村 浩一 (金沢市環境局リサイクル推進課主査)